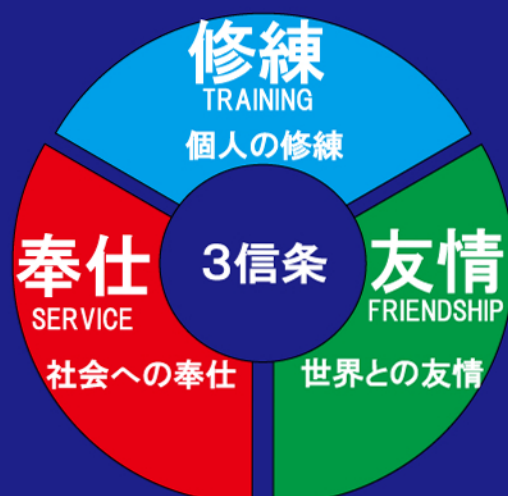


Press release

2017 Next New Reader in TACHIKAWA JC EIICHI OKABE



青年会議所とは？

「明るい豊かな社会の実現」を理想とし、責任感と情熱を持った青年経済人によって結集した団体です。「修練」「奉仕」「友情」の3つの信条のもと、よりよい社会づくりを目指し、様々な事業や行政改革等の社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所（JCI）のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として様々な運動を展開しています。

公益社団法人立川青年会議所は7月13日（水）、立川グランドホテルにて2017年度理事長予備選挙報告会を開催し、6月10日（金）に実施された2017年度理事長予備選挙に当選した岡部栄一君（35才／副理事長／（株）ヤマヲ専務取締役）が2017年度理事長予定者に決定したことを報告いたしました。

燦然と輝くこの地域と子供達の未来を見据えて

自分の存在意義は何であるのか、ふと徹底的に議論し行動に移さなければならぬ。と考える時があります。自分が今の時代になぜ生きているのか、この時代を生きているのか。誰かに生かされているのではないかという感覚に陥る時があります。



子供達の未来を見据えたとき、未来に向かい今を生きている青年である我々には、何が出来るのかを常に考え、子供達が大きな夢を描き続ける社会を築くために、立川、国立、武蔵村山、三市の広域LOMである立川青年会議所の特徴を生かした事業を行わなければならないと考えます。

一九四五年八月に終戦を迎えた第二次世界大戦時を生きた、我々と同じ世代の青年は何を考え、その時代を生きたか。そして、生き抜くことを許されなかった青年の御霊は何を考え、どのような未来を見据えていたのでしょうか。



すべての会員が自分の大切な時間を使い、家族や会社の貴重な時間を使いながら運動しており、運動に費やすその一瞬一瞬に感謝することを忘れてはなりません。そして、自己と他者の「時間軸」をどう捉えるのかを常に意識すること、目に見えない人の心を想う「人間力」を養うことができるのです。その「人間力」を高めた我々こそが、地域に対して問題提起し率先して行動し、市民の共感を得ることで意識変革を起こしていくのです。

地域に根差した運動を展開する

青年会議所運動は終戦から四年後の一九四九年九月より「新日本の再建は我々青年の使命である」という創始の想いから、未来の日本を「自分ごと」として捉えた一人の青年の行動から始まりました。そして、五二年の歴史ある立川青年会議所は、一九六五年七月に日本では三〇〇番目に、東京では二番目の青年会議所として設立されました。この五二年という歴史の中には、様々な経済環境、社会環境の変化があり、先輩諸兄がその「変化」に順応しながら「進化」を重ね、現在の立川青年会議所が存在しています。「変化」に順応し「進化」することができなければ我々の存在価値はなくなっていく。我々は、愛する地域が燦然と輝く未来を見据え、青年経済人として、変えてはならないものは「情熱」をもってその伝統を守り、変えなければならぬものは時代の変化に対応し「勇気」を持って仕組みや組織を変化させ、判断に迷うとき「我々の『英知』」を持つ



自己の利益を考える「自利」と他者のことに想いを馳せる「利他」の精神を併せ持ち、人と人との心で相互に支えあう、燦然と輝くこの地域の未来を見据え、二度とない人生だからこそすべての出会いを「一期一会」と捉え、全身全霊を懸けて理事長の職を全うするとともに、リーダーシップを発揮し率先して行動することをお誓い致します。時代をきりひらくのは我々青年の使命である。

岡部栄一君の経歴

- 1999年3月 日本大学第二高等学校 卒業
- 1999年4月 日本大学 商学部 経営学科 入学
- 2003年3月 日本大学 商学部 経営学科 卒業
- 2003年4月 多摩信用金庫 入庫
- 2007年3月 同社 退社
- 2007年4月 株式会社ヤマヲ 入社 専務取締役として至る

JCでのあゆみ

- 2012年 入会 地域協働推進委員会 委員
- 2013年 50周年事業準備特別委員会 幹事
公益社団法人日本青年会議所 総務グループ
JC運動発信会議 総括幹事
- 2014年 総務広報委員会 委員長
公益社団法人日本青年会議所 関東地区 東京ブロック協議会
東京ブロック大会運営委員会 委員
- グローバルネットワーク取得
(国際アカデミーin半田)
- 2015年 きずな繋ぐ育成委員会 委員長
公益社団法人日本青年会議所 LOM支援グループ
拡大委員会 委員
- 2016年 副理事長
公益社団法人日本青年会議所 総務グループ
共感デザイン構築会議 議長

応援メッセージ

二〇二二年度、栄一君のお父様とて「天の時」。その大きな大きな機会を与えられ、地域社会の為に先頭に立ち活動をするにあたり、謙虚にして驕ることなくリーダーとしての持つべき資質を常に問い続け、明るく豊かな社会の実現に向けて邁進されることを心より祈念しております。大きく変化をしていくであろうこの時代の中で組織も柔軟に変化を遂げていく必要があります。その変化を恐れずに臨む事無く、真のリーダーとして立川JCを率いて地域の可能性を創出してください。次代を担う立川の若きリーダーに期待しております。



二〇二二年度 第四八代理事長 矢澤貴光

岡部栄一君、二〇一七年度第五十三代理事長予定者へのご就任誠におめでとうございませう。二〇二二年に入会し、翌年には日本JCの委員会の総括幹事として出向し、とにかく入会当時から何事にも積極的に取り組み、講演や研修時には必ず一番前に座り、一つ一つの学びを自分の人生の糧としている姿がとても印象的です。新人小委員会委員長の時、四十一名の同期メンバーを苦しみながらも引き上げ、二〇一四年、総務広報委員長の時、私が担当として議案や会務運営、広報のことで毎日のように厳しい意見やアドバイスをしたことが、全てを素直に丁寧に対応してくれました。

今年、日本JC広報系の会議体の議長として、またLOMの副理事長として多大な重責の中でJC活動をし、どんなに大変でも愚痴一つ言わず、どちらの役職も手を抜くことなく精一杯やっています。日本の理事会等で見ると立川JCの代表として頑張る岡部議長の凛々しい姿をいつも誇りに思っています。そして立川JCに対して心から感謝と愛情を持っているメンバーです。

世代交代が急速に進む中、今年「東京ブロック大会」という大きな事業を主管したこともあり「実践」の部分で多くの経験を積んだメンバーに、JCの本質を再度伝えていかなければならないのが二〇一七年度だと思えます。先輩方から受け継いだ伝統を継承しつつ、一方で、時代に即した柔軟性が求められます。岡部君がこれまでに学んだ経験と知識を生かし、何よりもそのバイタリティーと強い意志、そして立川JCへの愛情と共に、覚悟をもって岡部君らしさで二〇一七年度の立川JCの先頭に立つて引張ってほしい、心からそう思います。

二〇一七年度、立川JCが地域での存在価値を更に高め、必要とされる団体であり続けることを祈念し岡部理事長への祝福のメッセージとさせていただきます。

二〇一六年度 第五二代理事長 中川夕香

